

第 8 号

帯広畜産大学基金報告

平成29年度

帯 広 畜 産 大 学 基 金

目 次

学長挨拶	1
平成29年度帯広畜産大学基金受入状況	2
平成29年度収支決算	3
学生修学支援事業基金	
平成29年度大学基金奨学生との懇談会を開催	4
《感謝の言葉》	
奨学生から	5
授業料免除学生から	10
大学運営支援事業基金	
《社会貢献活動の支援に関する助成》	
農業サークルあぐりとかち	13
帯広畜産大学吹奏楽部	14
ゼニガタアザラシ研究グループ	15
帯広畜産大学マンドリンサークル	16
写真サークル	17
ちくだいらんぷ事業	18
賛助会員名簿及び寄附者御芳名	19
感謝状の贈呈	23
各同窓会支部会等への出席	24
大学基金運営委員会委員名簿	26
大学基金に関する規程	27

学長挨拶

帯広畜産大学の教育・研究活動に対しまして、皆様のご理解と暖かいご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

皆様に本基金へのご賛同、ご寄附をいただきましたお陰で、近年は寄附額も増加してきており、重ねてお礼申し上げます。

平成29年度は、前年に引き続き各地で開催された同窓会等に、役員をはじめ教職員が出席させていただき、ご支援をお願いいたしましたほか、卒業生・修了生の皆様、学生保護者の皆様に大学基金パンフレットを郵送し、ご協力依頼をさせていただきました。

また、本学同窓生が勤務する十勝管内の農協・動物病院等へお願いするとともに、昨年初めて開催しました「ちくだいホームカミングデー」でもお願いして参りました。

さらに、ご寄附いただく方の利便性向上のため、平成30年2月よりクレジットカード決済、コンビニ決済、ネットバンク決済の取り扱いも始めました。

皆様の多大なるご協力により、平成29年度は前年比75%の増額となり、改めてお礼申し上げます。ご支援いただいた寄附金は、家計が困窮している成績優秀な学生への入学料免除、授業料免除、奨学金給付等を中心に、学生による地域での社会貢献活動への助成として大切に使用させていただきましたことを、ここにご報告申し上げます。

なお、今後の大学基金の用途として、老朽化が激しい附属図書館改修工事の費用の一部を助成することも予定しております。

帯広畜産大学基金では、意欲と能力のある学生が学びの機会を諦めることのないよう、今後も支援を手厚くしていくとともに、施設の改修により修学環境を整備していく考えです。そのためには、安定した財政基盤が大変重要です。

引き続き皆様からのご支援を賜りたく、是非とも継続的なご協力をお願い申し上げます。

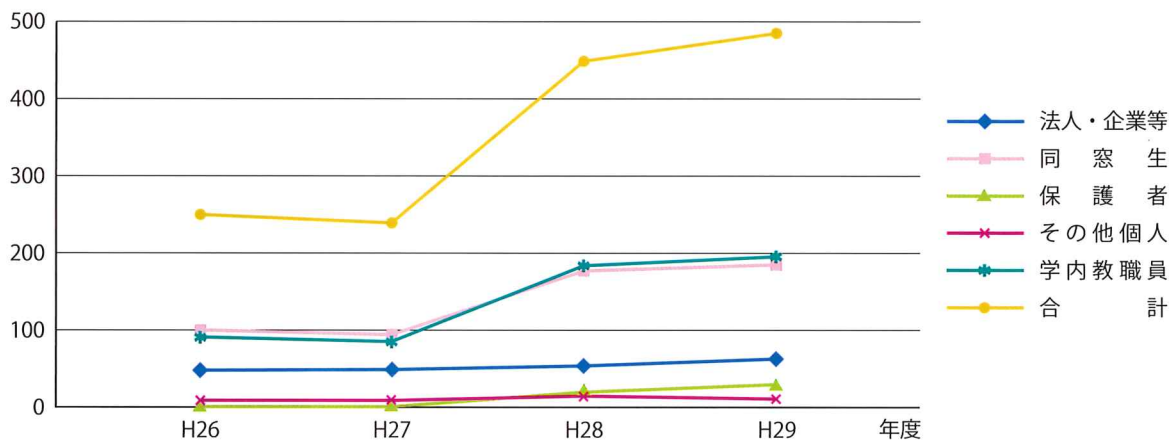


国立大学法人帯広畜産大学
学長 奥田 潔

平成29年度帯広畜産大学基金受入状況

件数 (件)

基金への寄附件数

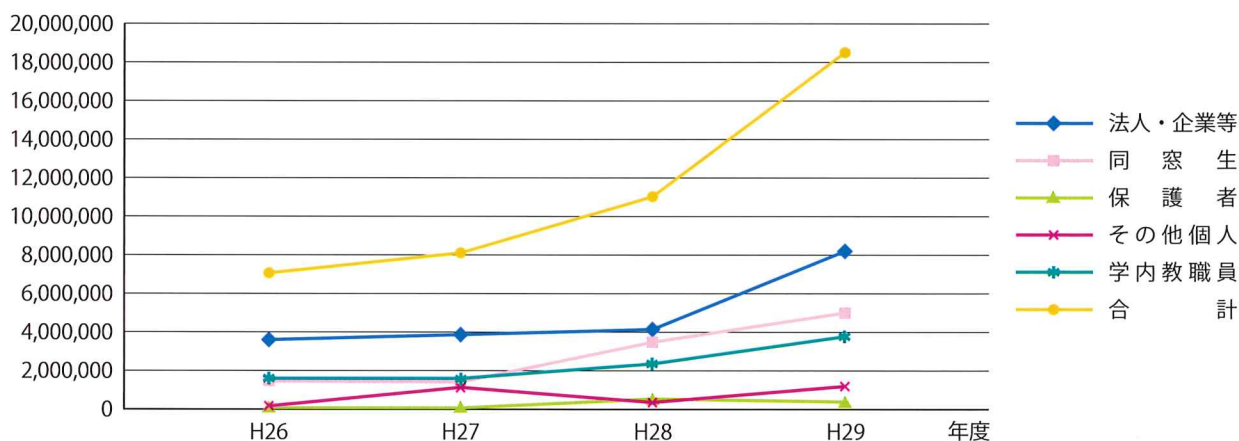


(単位: 円)

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度		
	年間	年間	年間	合計	学生修学支援	大学運営支援
法人・企業等	50団体	51団体	56団体	63団体	6団体	57団体
学外個人	110名	104名	211名	227名	218名	9名
同窓生	100名	94名	176名	186名	181名	5名
保護者	1名	1名	20名	30名	28名	2名
その他個人	9名	9名	15名	11名	9名	2名
学内教職員	91名	85名	183名	196名	195名	1名
賛助会員	91名	85名	102名	105名	104名	1名
ワンコイン賛助会員	—	—	81名	91名	91名	—
合計	251件	240件	450件	486件	419件	67件

金額 (円)

基金への寄附金額



(単位: 円)

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度		
	年間	年間	年間	合計	学生修学支援	大学運営支援
法人・企業等	3,870,000	3,986,000	4,040,000	8,194,000	2,290,000	5,904,000
学外個人	1,685,000	2,541,000	4,215,000	6,608,000	6,513,000	95,000
同窓生	1,575,000	1,431,000	3,490,000	5,012,000	4,972,000	40,000
保護者	10,000	10,000	410,000	406,000	376,000	30,000
その他個人	100,000	1,100,000	315,000	1,190,000	1,165,000	25,000
学内教職員	1,635,000	1,580,000	2,394,500	3,812,500	3,802,500	10,000
賛助会員	1,635,000	1,580,000	1,880,000	2,775,000	2,765,000	10,000
ワンコイン賛助会員	—	—	514,500	1,037,500	1,037,500	—
合計	7,190,000	8,107,000	10,649,500	18,614,500	12,605,500	6,009,000

平成29年度 収支決算

収入の部

(単位：千円)

区 分	件 数	金 額
法 人 ・ 企 業 等	63	8,194
同 窓 生	186	5,012
保 護 者	30	406
そ の 他 個 人	11	1,190
教 職 員	195	3,808
小 計	485	18,610
利 益 収 入 等	—	3,557
合 計	485	22,166

支出の部

(単位：千円)

項 目	金 額	
学 生 修 学 支 援 事 業 基 金		
授 業 料 等 免 除 事 業	授業料免除12名, 入学料免除 4 名	2,920
学 資 給 付 事 業	学部生 8 名, 大学院生 7 名	7,080
小 計		10,000
大 学 運 営 支 援 事 業 基 金		
社会貢献活動支援事業	マ ン ド リ ン サ ー ク ル	100
	吹 奏 楽 部	100
	農 業 サ ー ク ル あ ぐ り と か ち	100
	ゼニガタアザラシ研究グループ	100
	写 真 サ ー ク ル	100
	ち く だ い ら ん ぷ 事 業	2,000
小 計		2,500
合 計		12,500

収 支 差 額	9,666
---------	-------

平 成 29 年 度 期 首 残 高	271,232
--------------------	---------

平 成 29 年 度 期 末 残 高	280,898
--------------------	---------

平成29年度大学基金奨学生との懇談会を開催

10月23日（月）に、平成29年度大学基金奨学生との懇談会を開催しました。

この懇談会は、同奨学生に大学基金の趣旨を理解し、有効に使用してもらうことを目的に開催しています。

最初に、野並基金・広報戦略室長から「大学基金の奨学金は、その趣旨に賛同をいただいた企業・団体、同窓生及び教職員等からの寄附であり、奨学生の皆さんの修学に有効に活用していただくとともに、本学を卒業又は修了し、就職した際には、後輩の支援のために大学基金の賛助会員として寄附をお願いしたい。」との説明がありました。

続いて奥田潔学長から「この奨学金は学生を応援したいという寄附者の気持ちが込められている。そのことを忘れず、勉学に励んで欲しい。また、大学を離れた後は、感謝の気持ちが後輩へと繋がるように支援をお願いしたい。」と述べられました。

その後の懇談会では、各奨学生から研究内容などの自己紹介のほか、アルバイトを減らすことで精神面でも余裕ができた、将来について考える時間ができた、研究に時間を充てられるようになった、留学の準備に使用したいなど、この奨学金に対する感謝の言葉が述べられました。



奥田学長（前列中央）と大学基金奨学生
野並基金・広報戦略室長、横町副学長・事務局長（後列左から）、柳川理事（後列右）

奨学生からの感謝の言葉

「多くのことを学び、還元できるようになりたいと思います。」

共同獣医学課程1年 田中 匡



この度は、奨学金を給付していただきありがとうございます。入学してもう一年が経ちましたが、一時期は家庭の経済状況の問題で、家族と進学するかどうかについて何度も話し合いました。現在は、こうして進学して奨学金をいただいて就学できており、大学に入学してよかったと実感しています。1年では全学農畜産実習や教養科目、また夏季休暇中の帯広基礎獣医学演習などでとても多くのことを学ぶことができ、またやりたいことが新たにいくつも見つかり、これから自分がどのように学び、それを活かしていくのかをはっきりと自覚することができました。2年目以降も多くのことを学び、それを還元できるようになりたいと思います。

「ご支援に報いることができるよう勉学に励みます。」

共同獣医学課程1年 日隈 悠太



この度は、帯広畜産大学基金奨学生に採用頂き誠にありがとうございました。お陰様で、充実した大学生活1年目を過ごせました。私は学部1年生なので研究等は行っておりませんが、興味深く面白い講義との出会いやアルバイトでの経験を通して知見を広められた1年でした。「中南米の歴史と文化」では、ラテンアメリカ文学に触れ、読書の幅が広がり、「生物学概論」では植物に対する興味が湧きました。また、搾乳バイトは大変ですが、生産者の側から家畜に接することができます。この経験は来年から獣医学を学ぶにあたり、役に立つと思います。今後も、これまでに受けてきた様々なご支援へ報いることができるよう勉学に励みます。

「奨学金の力を借りて、海外渡航に挑戦しようと決めることができました。」

畜産科学課程1年 小林 晴日



この度は、帯広畜産大学基金奨学金を授与していただき、誠にありがとうございます。私は兄弟が多く、両親にあまり負担をかけられないため、アルバイトだけでは賄い切れない生活費等に、奨学金をあてる事ができました。ある講義で他国の留学生や留学経験のある学生の話聞く機会があり、他の国の文化や暮らしを経験すること、様々なことにチャレンジすることの大切さを感じました。私も本奨学金の力を借りて、海外渡航に挑戦しようと決めることができました。大学生活では少しでも自分がやりたいと思ったこと、今しかできないことに、ためらわず積極的に挑戦していきたいと考えています。奨学金を寄附していただいた様々な方々に本当に感謝しております。

「充実した大学生生活を送ることができています。」



畜産科学課程1年 玉手満太郎

この度は、帯広畜産大学基金の奨学生として採用していただき、誠にありがとうございます。この奨学金により、経済的に非常に助かっており、充実した大学生生活を送ることができています。帯広畜産大学では他の大学では学ぶことのできない農業や家畜に関する知識に触れることができ、実際に北海道に来て経験することで、日本の農畜産の現状についても知ることができました。将来は日本の農業をより活性化させる手助けとなれるような仕事に就きたいと思っております。本奨学金の支援に感謝し、悔いのない大学生生活を送るために、様々なことにチャレンジしていきながら、日々精進していこうと思っております。ありがとうございました。

「時間を自身の勉学に充てることができました。」



畜産科学課程1年 温水なあり

この度、帯広畜産大学基金奨学生に採用していただき、心より御礼申し上げます。私は学部1年生のため、まだ研究などには取り組んでおりませんが、講義の中で「全学農畜産実習」におけるブタの飼育・と畜実習が印象に残っています。自分達で飼育したブタが目の前でと畜される現場を間近で目にし、命をいただいている現実を痛感し、生かされていることを直に学ぶことができました。奨学金の給付を受けられたことで、生活費工面のために費やすことを考えていた時間を、自身の勉学に充てることができました。今後学年が上がるにつれ、講義内容も専門的になり難くなると思いますが、奨学生としてご支援いただいた感謝を忘れず、勉学に励み、努力していきたいと思っております。この度は誠にありがとうございました。

「勉強の時間を増やすことができました。」



畜産科学課程1年 矢代 麗菜

この度は、帯広畜産大学基金奨学生に採用していただき、誠にありがとうございます。私は、学費や生活費を自分で負担しているため、アルバイトをしていますが、奨学金を給付していただいたことにより、アルバイトを減らすことができ、勉強の時間を増やすことができました。私はこの1年、様々な講義を受けてきましたが、その中でも「豚の飼育実習」が強く印象に残っております。飼育からと畜、加工を通して実習したことで、私達が食べるまでにどのような経緯があるのかを学び、命を頂くということを深く理解することができました。ご支援していただいた皆様には、大変感謝しております。今後も、支えてくださる方への感謝を忘れずに勉学に励んでいきたいと思っております。

「学業に打ち込むことができるのは本奨学金のおかげです。」



畜産科学課程3年 荒木 綾乃

私は、様々な製法を用いてパンを製造し、官能評価や物性測定などを行ってパンの製造開発を行う研究室に所属しています。私自身の卒業研究は、赤味噌添加炊き種製パン法というテーマに決定し、赤味噌添加の炊き種を添加した生地製のパン性を評価する予定となっております。研究自体はまだ始まっていませんが、かねてから食品の製造、開発を学びたいと思っていましたので、今からとても楽しみです。私の家庭は母子家庭で、十分な収入を得られていませんが、時間をアルバイトだけに費やすことにならず、学業に打ち込むことができるのは本奨学金のおかげです。支援をしてくださっている多くの方々への感謝を忘れず、学業に研究、またこれから始まる就職活動にも精一杯打ち込んでいこうと思っております。

「将来は、ご支援への恩返しをしたいと思います。」



畜産科学課程3年 高橋 梨緒

私は副腎皮質ホルモンとウシの繁殖の関係について研究を行っています。この分野の研究が進み、家畜の繁殖現場に活かすことができれば、将来の畜産業に大きく貢献できると考えています。そのためにこの一年間、実験や勉学に精進して参りました。実験の他にも部活動などの課外活動も行っていました。帯広畜産大学基金のご支援をいただいたことで研究と課外活動を両立しながら生活することができました。本当にありがとうございました。将来は、自分が助けていただいたのと同じように、大学生の助けになることによって、今回のご支援への恩返しをしたいと思います。

「心から感謝申し上げます。」



畜産衛生学専攻1年 瀧澤 晃生

私は現在、大学院において家畜繁殖学を専攻し、乳牛の繁殖性低下の一つの要因である大腸菌の内毒素が卵子に及ぼす影響について研究しています。大学院では特に研究に力を入れたいと考えていました。しかし、経済的理由によりアルバイトせざるを得ない状況で、なかなか思い通りに研究できない状況でした。研究等で忙しいためアルバイトを続けることが難しく、また就職活動も控えていたため、今後の経済面に不安を抱えていましたが、この奨学金を受けられたことによりアルバイトなしでの生活が可能になり、その分の時間を研究に割けるようになりました。帯広畜産大学基金にご寄附いただいた皆様に心から感謝申し上げます。

「社会や大学にも貢献できるよう尽力していきたいと思います。」

畜産衛生学専攻1年 長谷川 類



この度は、帯広畜産大学基金奨学生に採用していただき誠にありがとうございます。現在、私は妊娠末期の乳用牛のインスリン抵抗性と栄養代謝状態について研究をしています。健康な乳用牛は生まれたときから健康であるという考えのもと、妊娠期の母牛の健康状態を改善することで、より健康な産子を増やしたいと考えています。私は、大学院から所属研究室がかわり、新たにこの研究を始めました。そのため新しく学ぶことも多く、また授業やアルバイトもあり時間的に余裕のない生活を送っていました。しかし今回、ご支援いただけたことで余裕を持って研究に取り組むことができます。将来はこの研究活動を糧に、日本の酪農の発展に貢献するとともに、社会や大学にも貢献できるよう尽力していきたいと思います。

「研究に益々熱心に取り組むことが出来ています。」

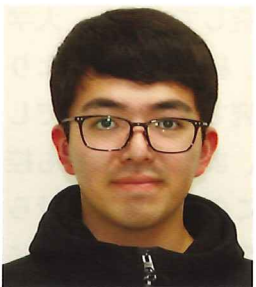
畜産衛生学専攻1年 森下 雄貴



この度は、帯広畜産大学基金奨学生に採用いただき誠にありがとうございました。研究に益々熱心に取り組むことが出来ています。現在は蚊媒介性感染症をコントロールするために、遺伝子組換え蚊を用いた研究を行っています。学部の中からこのテーマに取り組んでおり、蚊の卵にDNAをインジェクションする技術を取得しました。この技術を応用し、蚊の体内での病原体の生物学を明らかにしようとしています。私の夢は、人間と家畜と野生動物すべてがうまく調和できる世界を作ることです。研究室のメンバーはもちろん、大学関係者や家族、友人に支えられて、今の自分の研究が出来ています。感謝の気持ちを忘れずに日々研究に取り組みたいと考えています。

「この奨学金のおかげで今があります。」

畜産生命科学専攻1年 土佐 泰志



この度は、帯広畜産大学基金より奨学金を給付いただき誠にありがとうございます。私は勉学に時間を多く使いたいため、アルバイトの時間を極力少なくするようにしています。そのため、生活費および就学費を支払うにあたり、この奨学金を利用させていただいております。私は森林で野生動物の調査をしていますが、やはり自然のことは自然をよく体験しなければわかりません。この奨学金のおかげでまとまった時間を確保することができ、多くのフィールドワークを積み重ね、自分の研究に活かしています。今自分がこうして研究できているのはこの奨学金のおかげですので、大変感謝しております。

「心身共に余裕のある生活を送ることができました。」



畜産生命科学専攻1年 橋本 滯奈

この度は、帯広畜産大学基金奨学生に採用していただき、誠にありがとうございました。今年度より大学院に進学し、研究と講義に加え、アルバイトをする必要もあったため、余裕のない日々が続いていました。しかし、本奨学金を給付していただいたおかげでアルバイトを減らすことができ、心身共に余裕のある生活を送ることができました。現在は、学部時代の継続で、タイリクモモンガの繁殖パターン（産仔数や仔の性比）を変化させる要因を明らかにすべく、月に1回富良野市の森林へ調査に行っています。来年度は就職活動と並行して研究を行っていく必要があるため、さらに忙しくなると思いますが、今回ご支援いただいた感謝を胸に、より精進していきたいと思います。

「学業・研究に集中して取り組むことができました。」



畜産生命科学専攻1年 三塚 若菜

この度は、帯広畜産大学基金奨学生として採用していただき、心より御礼申し上げます。私は、学部生の時から貸与型の奨学金を受けており、加えてアルバイトで生活費を賄っていました。しかし、今年度は奨学金の給付を受けられたことで、アルバイトの時間を減らすことができ、学業・研究に集中して取り組むことができました。現在、私は野生動物学研究室に所属し、樹上性リス科齧歯類の形態・生態に関する研究に励んでおります。奨学金を頂いたおかげで、研究を優先することができ、論文雑誌への投稿を目指して計画的に研究を進めることができています。今後も、ご支援していただいた皆様からの貴重なご寄附に日々感謝しながら、精進してまいります。この度は、誠にありがとうございました。

「奨学金のおかげで充実した研究生活を送れました。」



食品科学専攻1年 五嶋 大介

この度は、帯広畜産大学基金奨学生に採用していただき、誠にありがとうございました。私は、今年度から大学院に進学し、学部から引き続き、酵素を用いたパン耳を添加したパン生地、製パン性の改善をテーマに研究を行っています。給付していただいた奨学金のおかげで、アルバイトの時間を減らし、研究に集中することができ、充実した研究活動を行うことができました。ご支援いただきました帯広畜産大学基金の賛助会員並びに寄附者の皆様ほか、関係者の方々にお礼申し上げます。今後も奨学金をいただいた感謝を忘れずに、研究に励んでいきたいと思っています。

授業料免除への感謝の言葉

共同獣医学課程 1年

この度は、授業料免除申請を許可していただきありがとうございます。私は本学の畜産科学課程を卒業した身ですが、今年度は獣医学課程に再入学し、再びこの帯広畜産大学で勉学に励んでおります。生活費等をアルバイトで工面しながらの学生生活は想像以上に大変ではありますが、卒業生や教員の皆様のご支援に支えられ、充実した日々を過ごしております。将来大動物臨床分野に貢献できるような人間を目指し、これからも努力をしていく所存です。重ねて御礼申し上げます。

畜産科学課程 1年

この度は、帯広畜産大学基金からのご支援を賜り、大学で勉学を続けさせていただけることを、大変幸せに感じるとともに、帯広畜産大学基金へご寄附いただいた皆様に深く御礼申し上げます。今後の大学生活においても、目標に少しでも近づけるよう努力を怠ることなく、励んでまいりたいと思いますので、今後とも何卒ご支援を賜りますようお願い申し上げます。皆様へのご恩と感謝を忘れず、より一層精進して参りたいと思います。

共同獣医学課程 2年

私は浪人して念願の獣医学課程のある帯広畜産大学に入学することができましたが、私の家や私自身には学費を支払える余裕はなく厳しい状況でした。浪人時代に両親にはとても負担をかけたため、大学でかかる費用は奨学金を多く借りることで支払おうと考えていましたが、その負担は大きく、学生生活と将来のことを考えると大変困難でした。大学基金のお陰で授業料免除を受けられ、学生生活を勉強に集中する環境をつくることのできただけでなく、奨学金を多く借りる必要もなくなり、将来の返済の負担を減らすこともできました。これから更に学ばなければならないことが増え、バイトなどに時間が割けないこともあると思うので、免除を受けられたことは本当にありがたく、感謝しています。

畜産科学課程 2年

この度は、帯広畜産大学基金のご支援により、授業料を免除していただき誠にありがとうございます。皆様の寄附のお陰で心置きなく勉学やサークル活動に励むことができます。私は現在食品科学分野を専攻しており、食品のもつ栄養学的な機能について学びたいと考えております。将来的には栄養の吸収効率の上がる食品加工技術の開発や、食べ合わせの方法を研究して社会に発信し、様々な健康障害から多くの人を救いたいです。これからも日々邁進してまいりますので応援のほどよろしく願いいたします。

畜産科学課程 2年

この度、帯広畜産大学基金の援助により、授業料の全額免除を受けることができました。基金に寄附をしてくださった卒業生や企業、教職員の方々に御礼申し上げます。今後は皆様からの寄附により、自分は授業を受けられているということを念頭におき、援助に甘んじることなく、皆様から期待されているような人材となれるよう日々精進していこうと考えております。重ねて御礼申し上げます。この度は本当にありがとうございました。

畜産科学課程 2年

二年後期授業料免除について、半額免除のところ、帯広畜産大学基金により全額免除にいただき、誠にありがとうございます。私は地元を離れ、帯広という慣れない土地で寮生活をしております。父子家庭で、また父が高齢なこともあり、おおきな経済的負担は厳しいものがあります。授業料を全額免除していただけることで、学業や部活動に全力で取り組むことができます。将来、日本の自給率向上に貢献していけるようこれからも勉学に励みます。本当にありがとうございます。

畜産科学課程 2年

この度は、帯広畜産大学基金により授業料を免除していただき、ありがとうございます。私は母子家庭で、母は派遣社員として働いているため、収入が安定しておらず、現在の状況では授業料の支払いが大変難しくなっていました。私もバイトをして、出来る限り自分の生活費を確保してきましたが、なかなか貯金が出来ず、授業料をすべて母に頼ることとなり、多くの負担をかけてしまったであろうと思います。私は授業料が全額免除にならなければ、深夜時間帯や平日にもバイトをしようと思っており、部活動も辞めようと考えていたため、今後の学業、部活動にかけられる時間を確保できるようになったことを非常に嬉しく思います。帯広畜産大学基金に寄附していただいた卒業生や企業、教職員の方々に感謝いたします。

畜産科学課程 2年

この度は、29年度後期授業料免除額を前期授業料免除額から増額していただき、ありがとうございます。両親共々喜んでおり、支援していただくにあたり、私自身も気を引き締めて勉強やサークル活動に取り組んでいきたいと考えております。また、今回の感謝の気持ちを忘れず、大学生活を意欲的に過ごせるよう頑張りたいと考えています。改めまして、授業料免除額を増額していただき、本当にありがとうございます。

畜産科学課程 3年

私の中で金銭の問題は常にあり、学費はその中の一つでした。帯広畜産大学基金のお陰で授業料が全額免除となり、金銭的な心配がかなり軽減されました。それにより、学業以外にとられていた時間を学習や卒業研究などに使うことが出来、非常に有意義な時間を過ごすことができます。家族やこの基金に携わる方々など、様々な方に支えられていることを心に、これからも学業に取り組んでいきたいと思います。

畜産科学課程 3年

この度は、帯広畜産大学基金のおかげで授業料免除の対象者になれたこと、心より感謝申し上げます。授業料免除によって学業に専念することができました。

私は大学の授業を通し、食べ物をいただくことのありがたさや、動物の命の大切さを学びました。将来は動物園のような、子ども達に命の大切さについて伝えることのできる仕事に就き、大学で学んだことを活かしたいと考えています。

今後も実りある学生生活を送り、将来の夢のためにも、更に勉学に励みたいと思います。ご支援くださった皆様、本当にありがとうございました。

畜産科学課程 3年

今回の授業料全額免除については本当に感謝の念しかないと感じています。私の父は、以前うつ病になってしまい、そのせいで働いていた会社を辞めざるを得なくなり、母の収入だけで生活がとても困窮していました。今は両親ともに働いていますが、生活は苦しいままで、とても仕送りや入学金などを両親に頼れる状況ではなく、帯広畜産大学基金からの援助がなければ、私は今の恵まれた環境にいることはできなかったと思います。家庭状況や自身の病気など、向き合わなければいけない問題はまだ残っていますが、大学に入学し、様々なことや色々な人に出会い、得た経験は、自分にとってかけがえのない生涯の宝だと感じています。改めて、私のような立場の人間に大学にいられるチャンスを作っていただいて、本当にありがとうございました。

畜産科学課程 4年

私は母子家庭で、あまり経済的な負担をかけられないために、アルバイトをして生活費を工面しておりました。今回、帯広畜産大学基金により授業料が全額免除されたことで経済的負担が減り、より学業に専念することができました。現在私は卒業研究で、人々の健康により良い影響を与える食品についての研究を行っております。残り少ない学生生活ですが、ご支援していただいた分恩返しができるよう、努力をしていきたいと思っております。

農業サークルめぐりとかち

農林漁業学園（主催：学生団体いろり）へ参加

このイベントは、2017年11月4～5日に東京都千代田区丸の内エリアにて行われ、全国各地の学生団体やサークル約20団体が参加し、自分達の活動地域で生産された農作物や商品を販売しました。私たちは、十勝管外の消費者に十勝産食材のPRを行い、国産食材や十勝産食材の購買意欲を引き出すこと、また、消費者の反応を生産者に還元することを目的に、3年生1名、2年生4名の計5名で参加し、馬鈴薯やユリ根、地サイダー、パスタ、十勝産野菜の入ったホタテの炊き込みご飯の素など5品目計115個の特産物を販売しました。販売価格は仕入れ先と相談を行い決定しました。目的を達成するため、各商品のキャッチコピーやチラシを作成し、消費者に十勝産食材の特徴や生産者のこだわりが伝わる工夫を行いました。今回は昨年度よりも農作物の販売数を増やし、珍しい野菜の知名度を上げることに挑戦しました。ユリ根は年配の女性に知名度が高く、東京ではあまり手に入らないこともあり、需要も高かったです。馬鈴薯の「とうや」はほとんど知られていませんでしたが、初めて知ったという方にも特徴を説明することで販売でき、手ごたえを感じました。「北海道産の野菜はおいしい」という意見は多かったのですが、十勝産の認知度は低かったため、これからも継続して十勝産食材のPRを行う必要があると感じました。夜には参加学生らの懇親会も開催され、自団体の長所や短所を見つめなおす機会となり、新しい活動への意欲をかきたてられました。今回協力いただいた生産者の方々には、報告と消費者の言葉をまとめたものを送付し、感謝を伝えました。



左：販売風景、右上：販売時に配布したチラシ、右下：参加学生集合写真

謝辞

帯広畜産大学基金からの助成金は、今後もこの活動が続けられるよう移動費及び宿泊費の補助として活用させていただきました。ご支援くださいました皆様に、心より感謝申し上げます。

帯広畜産大学吹奏楽部

帯広畜産大学吹奏楽部は、1991年7月に同好会として発足して以来、定期演奏会をはじめとした様々な演奏会で、地域の方々と音楽を通じた交流をしています。今年度は現役部員23名で活動してきました。12月の定期演奏会で13人の3年生が引退し、現在は新体制となってスプリングコンサートに向けた練習に励んでいます。

1. スプリングコンサート (2017年4月16日)

地域の人と帯広畜産大学に入学した1年生を対象に、初めて新体制で臨んだ演奏会でした。約114名のお客様にご来場いただき、音楽を通して楽しい時間を共有することができました。この演奏会をきっかけに1年生5名と編入の3年生1名が入部し、今年度の活動がスタートしました。



2. おびひろ自動車学校依頼演奏 (2017年5月14日)

春の全国交通安全運動に併せて、おびひろ自動車学校で行われた一日開放Dayで演奏させていただきました。幼児教室や高齢者教室、シミュレーション体験が開催される中、教室ではアンサンブルを、教習コース内ではOBOGも含めた演奏をさせていただき、子供から大人まで音楽に触れることができる場を提供させていただきました。

3. 啓北音楽のひろば (2017年11月5日)

毎年啓北小学校(帯広市)で開催されている催しに、初めてお招きいただきました。吹奏楽部と兼部している部員も多い、畜大ジャズ研究会も参加しました。小学生から大学生まで、帯広で音楽活動をしている様々な個人や団体が出演し、とても刺激を受けました。観客は出演する小、中学生の保護者が中心で、和やかな雰囲気の中で楽しく演奏することができました。

4. 第25回定期演奏会 (2017年12月16日)

OBOGも多数出演していただき、1年間の活動の集大成として、部員一同全力で演奏しました。技術的にはまだまだのところも多くなりましたが、お客様のアンケートでは多くのお褒めの言葉や励ましをいただきました。3年生はこの演奏会をもって引退となりましたが、後輩たちには、演奏会に足を運んでくださるお客様や、地域の方からの暖かいご支援への感謝の気持ちを忘れることなく引き続き頑張りたいと思います。



謝辞

吹奏楽部へご支援いただきました帯広畜産大学基金に、心からお礼申し上げます。

ゼニガタアザラシ研究グループ

ゼニガタアザラシを題材とした環境教育 ～小学校出前授業の報告～

ゼニガタアザラシ研究グループでは、これまでの活動に加え、活動の中で得た知識などを積極的に発信する場として、ゼニガタアザラシを題材とした環境教育を行うことを目的に、小学校での出前授業を行いました。準備として、今回ゼニガタアザラシのトランクキットを作製しました。トランクキットとは、対象とする動植物や分野などに関する実物標本や資料がまとめられたパッケージ型資料のことです。

トランクキットの内容物

- ・ゼニガタアザラシの鞣し皮
- ・等身大ぬいぐるみ (Pup)
- ・等身大パネル (Adult,Pup)
- ・腋窩の長さのひも (Adult,Pup)
- ・Pupの重さバケツ
- ・ゼニガタアザラシペーパークラフト

その他、前肢・後肢の骨格標本やとっさり喰いされた鮭の標本と解説パネルの作製、ゼニガタアザラシに関する書籍などの追加



小学校土曜授業『ゼニガタアザラシについて知ろう』を開催

日時：2017年11月18日（土） 9：15～11：00

場所：新得小学校（十勝・新得町） 対象：小学3年生、保護者



小学校授業を実施するにあたって、ゼニガタアザラシについて子どもたちに楽しみながら学んでもらうことを目標としました。さらに、ゼニガタアザラシを通して野生動物と人間の問題についてふれ、共存について考えるきっかけとなる授業内容を意識しました。授業は、ゼニガタアザラシの生態についてクイズを交えた解説に加え、標本や等身大パネルなどを用いて、体感しながら学べる内容にしました。また、定置網漁の映像や、漁業被害の写真を見せてゼニガタアザラシと人間の問題を紹介し、そのことについて考えてもらいました。その他、クイズやペーパークラフト作りを実施しました。

授業をふりかえって

子どもたちの反応は思っていた以上に良く、多くの子が興味を持って参加してくれました。ゼニガタアザラシの生態に関するクイズは、互いに相談しながら楽しんで取り組んでいました。本物の毛皮には、興味を示したり、怖がったりと反応はさまざまで、等身大パネルなどでゼニガタアザラシの大きさを体感すると、想像以上の大きさに驚きの声が上がりました。また、アザラシの漁業被害の話は、真剣に聞いてくれました。子どもたちからは活発な意見や質問があり、関心の高さが伺えました。この経験を今後の活動に生かし、より良い内容を目指していきます。

謝辞

帯広畜産大学基金からの助成により、本事業を実施することができました。野生動物と人が共存可能な環境を形成する一助となるよう、帯広畜産大学を基盤として、今後より地域との連携活動に励みたいと考えます。心より感謝申し上げます。

帯広畜産大学マンドリンサークル

当サークルは、1965年5月マンドリン同好会として発足しました。1969年、25名の部員により「第1回定期演奏会」を開催して以来、毎年継続されてきた演奏会は大学内外の様々な方のご支援により、今年で48回を数えました。

平成29年度の部員数は、3年生2人・2年生11人・1年生10人の計23名でした。大学に入学して初めてマンドリンを触ったという部員がほとんどですが、楽しく、美しく奏でることを目標に日々練習に励んでいます。

第48回定期演奏会を開催（2017年12月3日）

とかちプラザ2階レインボーホールにて開催しました。OBOGを含む計28名が出演し、179名（入場時カウント）の方にご来場いただき、日々の練習の成果を地域の方々に披露することが出来ました。入場者アンケートでは、感謝や称賛の言葉、また建設的なご意見など多くの感想が寄せられ、地域の方々の温かさを感じました。この演奏会で3年生は引退となり、サークルが新体制に移行する節目で、出演者一同気持ちを込めて演奏しました。

近年、定期演奏会の来場者数が増加傾向にあり、地域の方々に興味を持って頂けていることを実感しています。引き続き、日々の練習に励んでいきます！



謝辞

今年度は、例年に比べて学内外から多くの演奏依頼を頂きました。中には、日程が厳しくお断りしたのもあり非常に残念でしたが、出来る限り活動しました。また、十勝マンドリンアンサンブル様をはじめとした一般演奏団体との交流も増え、学外でも積極的に演奏活動が出来たと感じています。これも、ひとえに帯広畜産大学大学基金のご支援の賜物と感じております。この場を借り、厚く御礼申し上げます。

写真サークル

活動目的

写真撮影技術の向上及び相互の親睦と協調性を養うこと。また撮影に伴う物理原理、自然現象の理解をすること。

写真展「十勝の人」を開催

- ・開催期間…1月17日(水)～27日(土) ・場所…帯広市立図書館 1階展示スペース
- ・テーマ…十勝の人

目的

- ・帯広、十勝の魅力を写真で伝える ・写真を通し地域の人との交流する
- ・サークル活動をさらに充実させる

写真展の様子

展示作品は合計で62点。A3版作品を13枚と2L版の写真を49枚展示しました。展示スペースが図書館の駐車場側の入り口から入ると必ず目に付くところにあつたことから多くの方にご覧いただけたと思います。

実施したアンケートの「写真を見て十勝の魅力を感じましたか？」という質問に、97%の方が「はい」とご回答いただき、目的である十勝の魅力を伝えることは出来たと思います。その他にも、「たくさん人の写真を撮って、一次産業で働く人にスポットを当ててください。」「昔を思い出す写真をありがとうございました。」など、多くのありがたいご意見ご感想をいただきました。



謝辞

写真サークルの日ごろの成果を写真展「十勝の人」として形にすることが出来たのは、展示場所を貸していただいた帯広市立図書館、資金提供をしていただいた帯広畜産大学基金、学生支援課の方々のおかげです。協力していただいた皆様へ心から御礼を申し上げます。

ちくだいらんぷ事業

ちくだいらんぷ事業は、平成29年度より十勝カレッジSILO（サイロ）事業を引き継いで、より学生が主体となる活動に転換したものです。学生が中心となり、帯広とかちの活性化を図ることを目的に以下の活動を行いました。

1. 「十勝ジンギスカン会議」(2017年8月12日)

十勝の美味しいジンギスカン店や焼き肉店を全国にアピールすることを目的に開催しており、今年度で3回目となりました。

このイベントを通して地域活性化につなげるために、各店への出店依頼、当日の司会、会場設営、接客、各店の特色のアピールなど、学生が中心となり実施しました。



2. まちなか活性化プロジェクト

学生が自ら企画する事業の実現を支援することで、賑わいのあるまちづくりを推進しました。

(1) うまの日イベント (2017年9月17日)

帯広競馬場で開催されたイベントにおいて、馬を「見る」「知る」「触る」をコンセプトとした企画を実施。

(2) インターナショナルカレーパーティー (2017年10月29日)

様々な国のカレーを留学生と一緒に作り、その国の食文化を知るとともに国際交流を図る。

(3) 十勝の生産者&農産物紹介HP作成

地域の生産者と農産物を紹介するHPを作成し、全国に宣伝することで地域に貢献する。

(4) BEEHAVE ～ミツバチでまちも農業も活性化～

農業に対するミツバチの役割を普及・啓発するとともに、養蜂に挑戦する。

3. まちなか講演会

学生の関心がある分野で活躍している人をお招きし、学生と地域住民が共に学ぶことができる講演会を開催しました。

第1回「清瀬みつばちプロジェクト」(2017年12月15日)

講演者：東京都清瀬市役所 総務課長 田村文義氏 他

第2回「イベント事業と地域振興ー勝毎花火大会を中心にー」(2018年1月18日)

講演者：勝毎光風社 取締役社長 永田耕司氏

第3回「不幸な猫を減らすには」(2018年2月15日)

講演者：NPO法人猫たちを守る十勝Wishの会 代表 原田美加氏 他

第4回「クラウドファンディングについて」(2018年3月7日)

講演者：帯広信用金庫 経営コンサルティング室 石川浩康氏

謝辞 帯広畜産大学基金からのご支援で、多くの事業を実施することが出来ました。
心より感謝申し上げます。

賛助会員名簿

(平成30年3月31日現在)

[企業・団体等] (64団体)

(五十音順・敬称略)

- | | |
|------------------------------------|---------------------|
| 1 (有)青田企画巧芸 | 30 (株)十勝生ハム製造研究所 |
| 2 (株)アクト | 31 十勝農業協同組合連合会 |
| 3 (株)伊豆倉組 | 32 十勝農協連畜大同窓会 |
| 4 出雲ペットクリニック | 33 株式会社とがち繁殖技術研究所 |
| 5 上田清掃(株) | 34 (株)十勝毎日新聞社 |
| 6 (株)ウチダシステムス北海道支社帯広支店 | 35 (株)都市田園協働ファーム |
| 7 (株)エヌシーおびひろ | 36 内外施設工業(株) |
| 8 大槻理化学(株) | 37 (株)日専連ジェミス |
| 9 (株)小澤建設 | 38 日本甜菜製糖(株) |
| 10 帯広ガス(株) | 39 バイオマスリサーチ(株) |
| 11 帯広商工会議所 | 40 ハラデンキ(株) |
| 12 帯広信用金庫 | 41 (株)平田建設 |
| 13 帯広地方卸売市場(株) | 42 FOREX 森産業(株) |
| 14 川岸電設(株) | 43 富士金網製造(株) |
| 15 公益信託 河本記念北海道・
新疆ウイグル開発技術交流基金 | 44 (株)べつかい乳業興社 |
| 16 特定非営利活動法人
コミュニティシンクタンクあうるず | 45 北王コンサルタント(株) |
| 17 士幌町農業協同組合 | 46 社会医療法人北斗 |
| 18 (株)ズコーシャ | 47 (株)北海道新聞社帯広支社 |
| 19 全国酪農業協同組合連合会 | 48 北海道電力(株)帯広支店 |
| 20 (株)曾我 | 49 北海道農業協同組合中央会帯広支所 |
| 21 (株)ダイイチ | 50 三菱商事株式会社北海道支社 |
| 22 大昭電気工業(株) | 51 宮坂建設工業(株) |
| 23 税理士法人 竹川会計事務所 | 52 宮本機械(株) |
| 24 (株)土谷特殊農機具製作所 | 53 宮本商産(株) |
| 25 デジタルグラフィックス(株) | 54 山の下ペットクリニック |
| 26 東洋農機(株) | 55 (株)山本忠信商店 |
| 27 十勝清水町農業協同組合 | 56 よつ葉乳業(株) |
| 28 十勝信用組合 | 57 酪農乳業関係関東有志同窓会 |
| 29 十勝地区農業協同組合長会 | 58 (株)柳月 |
| | 59 YS ヤマショウ(株) |

不掲載希望 5 団体

(平成30年 3月31日現在)
(五十音順・敬称略)

[個人・学外] (128名)

1	秋葉正幸	41	白戸綾子	81	丸山真也
2	芦澤明	42	末広彰	82	三上正幸
3	有賀秀子	43	杉浦互郎	83	三竹俊之
4	安藤弘	44	鈴木一郎	84	三津原勝
5	池田奉昭	45	鈴木政一	85	宮本道男
6	池水千枝	46	鈴木光則	86	三好雅史
7	石川智之	47	砂川敏文	87	御代田美一
8	石田雅嗣	48	高木俊雄	88	村上豊
9	石田正人	49	高木康弘	89	村林宏
10	石橋憲一	50	高桑修	90	森井恒幸
11	井戸一寿	51	高田薫	91	森本英敬
12	稲田一郎	52	高橋一夫	92	諸角元二
13	今田忠夫	53	高橋剛	93	山口哲也
14	宇井三喜子	54	高橋秀清	94	山口佳孝
15	大岩成助	55	高橋やす子	95	山崎雄真
16	太田秀文	56	田中秀明	96	山下睦弘
17	大友良文	57	田中秀明	97	山根睦弘
18	大宮功人	58	棚橋祐治	98	山本哲壽
19	岡功人	59	丹野久夫	99	由佐壽朗
20	鬼塚義臣	60	塚本篤	100	横尾博敏
21	影山晴久	61	敦賀謙一郎	101	横山誠人
22	笠井晋隆	62	出口宣夫	102	横山武英
23	梶和悦	63	所羽建治	103	吉田英治
24	勝俣仁志	64	鳥羽欣三	104	吉野村忠
25	加藤崎寧	65	中川靖史	105	吉米山修
26	川藤均	66	名和武久	106	和田明
27	工藤政男	67	西田隆讓	107	
28	久保田幹子	68	西田隆讓		
29	小林温子	69	新田川浩		
30	齋藤正明	70	野谷昭夫		
31	齐藤清治	71	蜂谷昭夫		
32	坂井清健	72	羽田昭夫		
33	佐々木健二	73	濱崎克昌		
34	佐藤一雅	74	林俊克		
35	佐藤基佳	75	林正則		
36	佐藤慶岩	76	平山淳一		
37	佐藤久夫	77	藤田裕一		
38	佐田雄二	78	藤村多喜子		
39	柴貫正道	79	増本純孝		
40	島貫正道	80	丸山純孝		

不掲載希望 21名

(平成30年3月31日現在)
(五十音順・敬称略)

[個人・学内] (164名)

- | | | | | | |
|----|-------|----|-------|-----|-------|
| 1 | 相内大吾 | 41 | 北村延夫 | 81 | 早坂美穂 |
| 2 | 浅野昇一 | 42 | 木林透 | 82 | 韓圭鎬 |
| 3 | 穴澤清幸 | 43 | 木村賢人 | 83 | 福島道広 |
| 4 | 荒谷正樹 | 44 | 木村美紀 | 84 | 福田健二 |
| 5 | 生田和哉 | 45 | 姜興起 | 85 | 古岡秀文 |
| 6 | 石井利明 | 46 | 窪田さと子 | 86 | 暮地本宙己 |
| 7 | 石原鮎美 | 47 | 倉園久生 | 87 | 堀田努 |
| 8 | 石原貴文 | 48 | 玄学南 | 88 | 牧祐紀夫 |
| 9 | 石割厚希 | 49 | 小疇浩 | 89 | 舛川正晃 |
| 10 | 井上昇子 | 50 | 耕野拓一 | 90 | 松井基純 |
| 11 | 内田伸子 | 51 | 後藤達彦 | 91 | 松浦佳子 |
| 12 | 梅津一孝 | 52 | 小山耕平 | 92 | 松本高太郎 |
| 13 | 大石明広 | 53 | 齐藤準 | 93 | 三浦秀穂 |
| 14 | 大大坪秀典 | 54 | 佐久間育子 | 94 | 宫原和郎 |
| 15 | 大大西明美 | 55 | 佐々木基樹 | 95 | 宫本明夫 |
| 16 | 大大西一光 | 56 | 佐藤健一 | 96 | 宗岡寿美 |
| 17 | 大大橋穰 | 57 | 佐藤禎稔 | 97 | 村上徹 |
| 18 | 大大林姿子 | 58 | 芝野健一 | 98 | 村田浩一郎 |
| 19 | 大和田琢二 | 59 | 坂本さや香 | 99 | 村西由紀 |
| 20 | 小川晴子 | 60 | 杉田帆奈美 | 100 | 森正彦 |
| 21 | 奥田潔世 | 61 | 高石竜一 | 101 | 森松文毅 |
| 22 | 奥村香世 | 62 | 高橋伸治 | 102 | 矢島大彰 |
| 23 | 小倉真輝 | 63 | 高橋良江 | 103 | 柳川久将 |
| 24 | 小田賢一 | 64 | 館野淳幸 | 104 | 山口栄樹 |
| 25 | 小田有二 | 65 | 谷昌三 | 105 | 山崎真樹夫 |
| 26 | 折笠善丈 | 66 | 千葉都志 | 106 | 山本直明 |
| 27 | 海田芳喜美 | 67 | 塚本孝修 | 107 | 横町綾華 |
| 28 | 角田裕誠 | 68 | 辻塚雅文 | 108 | 吉野海理 |
| 29 | 笠原誠人 | 69 | 手塚圭彦 | 109 | 若木大輔 |
| 30 | 春日藤豊 | 70 | 得字留孝 | 110 | |
| 31 | 加門平睦 | 71 | 豊留島司 | | |
| 32 | 門屋充郎 | 72 | 中谷慎昌 | | |
| 33 | 金山紀久 | 73 | 中野慎吾 | | |
| 34 | 鴨志田敏元 | 74 | 中西田慎武 | | |
| 35 | 嘉屋野光 | 75 | 西田賀修 | | |
| 36 | 茅野千帆 | 76 | 奴賀並雅章 | | |
| 37 | 川島村正 | 77 | 野並田正 | | |
| 38 | 川村正克 | 78 | 花田和 | | |
| 39 | 木田 | 79 | 早坂 | | |
| 40 | | 80 | | | |

不掲載希望 54名

その他の寄附者ご芳名

(平成30年3月31日現在)

(五十音順・敬称略)

[個人] (100名)

- | | | |
|-----------|------------|-----------|
| 1 安部 忍 | 24 佐藤 かおり | 47 羽柴 清志 |
| 2 池田 友次 | 25 佐藤 ひろみ | 48 橋本 良行 |
| 3 石川 諭史 | 26 佐藤 理映 | 49 早坂 貴代史 |
| 4 石川 光男 | 27 澤田 拓士 | 50 早坂 純一 |
| 5 乾 英二 | 28 鹿間 博行 | 51 樋口 裕二 |
| 6 岩田 智子 | 29 白石 喜久夫 | 52 平岡 幹之助 |
| 7 大竹 和秀 | 30 杉浦 健夫 | 53 蛭川 俊介 |
| 8 大槻 啓二 | 31 鈴木 建晴 | 54 廣野 秀美 |
| 9 奥田 善基 | 32 住 伸栄 | 55 深沢 晃 |
| 10 折橋 秀夫 | 33 関 秀章 | 56 不二崎 順二 |
| 11 恩田 求 | 34 関澤 文夫 | 57 藤澤 義美 |
| 12 柏村 文郎 | 35 背野 公江 | 58 藤代 寛 |
| 13 兼子 樹廣 | 36 高橋 繁男 | 59 細井 一弘 |
| 14 印牧 馨 | 37 高橋 次夫 | 60 益田 邦郎 |
| 15 菅野 宗夫 | 38 高橋 正州 | 61 三浦 美津子 |
| 16 菊一 三四二 | 39 田中 静幸 | 62 水本 麻湖 |
| 17 北山 茂利 | 40 月安 三蔵 | 63 三宅 勝 |
| 18 國寄 誠 | 41 筒木 潔 | 64 山口 隆之 |
| 19 熊谷 寿子 | 42 土器屋 美貴子 | 65 楊 仕元 |
| 20 栗原 敬 | 43 長澤 秀行 | 66 横沢 冲彦 |
| 21 古山 輝久 | 44 中村 圭一 | 67 吉田 定弘 |
| 22 斉藤 篤 | 45 中村 忠雄 | 68 渡辺 睦実 |
| 23 酒井 謙司 | 46 西 武久 | |

不掲載希望 32名

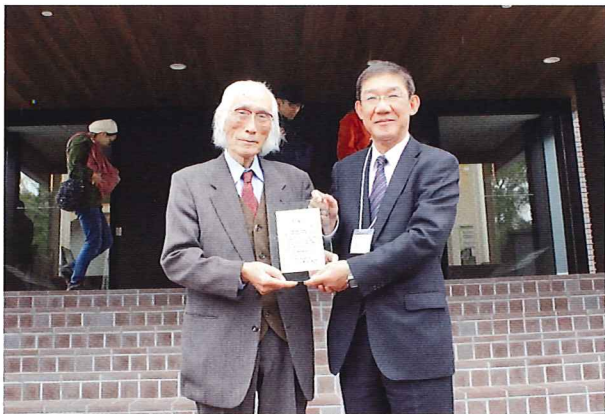
感謝状の贈呈

このたび、大学基金の賛助会員として多大なご支援をいただいた三浦弘之氏（本学名誉教授）並びに公益信託河本記念北海道・新疆ウイグル開発技術交流基金に対して、奥田潔学長より感謝状を贈呈しました。

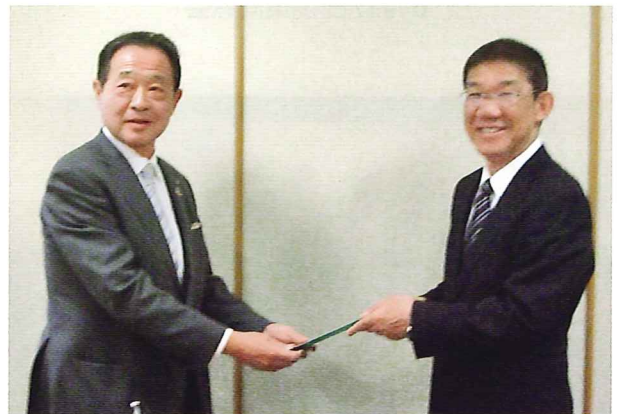
この感謝状は、平成22年4月に帯広畜産大学基金を創設以来、企業・団体等にあっては100万円以上、個人にあっては50万円以上のご寄附をいただいた方に対し、大学基金で定める「謝意表明の基本方針」に基づき、贈呈したものです。

10月7日（土）に三浦先生へ、10月11日（水）には、公益信託河本記念北海道・新疆ウイグル開発技術交流基金の河本英典運営委員長へ、それぞれ学長から感謝状を贈呈いたしました。また、同じく多大なご支援をいただいた斉藤篤氏には、遠方のため感謝状を送付させていただきました。

なお、企業・団体等で20万円以上、個人にあっては10万円以上の寄附をされた方には、本学「かしわプラザ」に設置してある銘板に掲載させていただきます。



三浦先生、奥田学長（左から）



河本運営委員長、奥田学長（左から）

各同窓会支部会等への出席

平成29年度に開催された、各同窓会の支部会へ奥田学長をはじめ、柳川理事、井上理事及び教職員が出席し、同窓生の皆様と懇親を深めました。



6月17日 関東同窓会



7月22日 釧路支部同窓会



10月28日 兵庫県支部同窓会



11月11日 上川支部同窓会



11月18日 中国支部同窓会



11月18日 オホーツク支部同窓会



2月4日 愛媛県支部同窓会



2月9日 畜大有志同窓会

「ちくだいホームカミングデー 2017」を開催

10月7日（土）に、講堂などにおいて、卒業生、修了生及び教職員OB・OGの皆様へ、再び本学に足をお運びいただき、同窓生や在学生、教職員との交流を深めていただくために、初めてとなる「ちくだいホームカミングデー 2017」を帯広畜産大学同窓会と共催で開催し、全国各地から約130名（教職員含む）の方にご参加いただきました。



講堂前での集合写真

国立大学法人帯広畜産大学基金運営委員会委員名簿

構成員 15名（任期2年：平成28年4月1日～平成30年3月31日）

職 名	氏 名	
委員長 帯広畜産大学 学長	奥 田 潔	
委 員	宮坂建設工業(株) 代表取締役社長	宮 坂 寿 文
	よつ葉乳業(株) 常務取締役 十勝主管工場長	川 瀬 博 教
	日本甜菜製糖(株) 常務取締役 芽室製糖所長	鈴 木 良 幸
	(株)ズコーシャ 代表取締役社長	関 本 裕 至
	十勝農業協同組合連合会 専務理事	高 橋 英 三
	帯広商工会議所 会頭	高 橋 勝 坦
	(株)土谷特殊農機具製作所 代表取締役社長	土 谷 紀 明
	(株)十勝毎日新聞社 代表取締役社長	林 浩 史
	帯広信用金庫 会長	増 田 正 二
	帯広畜産大学同窓会 会長	砂 川 敏 文
	帯広畜産大学 理事	柳 川 久
	帯広畜産大学 理事	井 上 昇
	帯広畜産大学 理事	門 屋 充 郎
帯広畜産大学 副学長・事務局長	横 町 直 明	

国立大学法人帯広畜産大学基金規程

(平成22年1月21日 規程第1号)

改正 平成28年7月29日 規程第30号 平成29年3月28日 規程第15号

(設置)

第1条 国立大学法人帯広畜産大学（以下「本学」という。）に、経済的理由により修学に困難がある学生等を対象とした修学環境を支援するための基金として学生修学支援事業基金を、また大学運営及び社会貢献に関する活動を支援するための基金として大学運営支援事業基金を置く。

(学生修学支援事業基金)

第2条 学生修学支援事業基金は、次の各号に掲げる事業の用に供するものとする。

- (1) 授業料，入学料又は寄宿料の免除等の経済的負担の軽減を図る事業
 - (2) 学費を貸与又は給付する事業
 - (3) 海外留学費用を給付する事業
 - (4) 教育研究業務に従事させるための雇用経費を支給する事業
- 2 学生修学支援事業基金は、前項に定める事業を寄附目的とする寄附及びその運用による果実をもって構成する。

(大学運営支援事業基金)

第3条 大学運営支援事業基金は、次の各号に掲げる事業の用に供するものとする。但し、前条第1項に掲げる事業を除く。

- (1) 教育研究環境の整備に関する事業
 - (2) 社会貢献活動の支援に関する事業
 - (3) 産業界，同窓生との連携に関する事業
 - (4) その他本学運営のために必要な事業
- 2 大学運営支援事業基金は、前項に定める事業を目的とする寄附及びその運用による果実をもって構成する。

(基金の使途)

第4条 学長は、学生修学支援事業基金及び大学運営支援事業基金（以下「各基金」という。）の寄附の受入の決定にあたり、寄附者があらかじめ使途を特定しない場合においては、これを特定しなければならない。

2 各基金に対して納付された寄附金の使途は、変更してはならない。

(基金の運営)

第5条 各基金はそれぞれ区分して経理することとし、その運営は、各基金毎に受け入れる寄附及びその果実をもって充てる。

- 2 各基金の運営に関する重要事項の審議は、帯広畜産大学基金運営委員会（以下「委員会」という。）が行う。
- 3 委員会の組織運営等については、別に定める。

(賛助会員)

第6条 各基金の目的に賛同する者は、学長の承認を受けて賛助会員となることができる。

2 賛助会員及び賛助会費に関し必要な事項は、別に定める。

(事業年度)

第7条 各基金の事業年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わるものとする。

(庶務)

第8条 各基金の庶務は、事務局関係課等の協力を得て、総務課基金・広報戦略室において処理する。

(雑則)

第9条 この規程に定めるもののほか、各基金の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附則

この規程は、平成22年1月21日から施行する。

附則(平成28年7月29日規程第30号)

この規程は、平成28年7月29日から施行し、平成28年4月1日から適用する。

附則(平成29年3月28日規程第15号)

この規程は、平成29年4月1日から施行する。

国立大学法人帯広畜産大学基金賛助会員規程

(平成22年1月21日規程第2号)

改正 平成28年7月29日規程第31号

(趣旨)

第1条 国立大学法人帯広畜産大学基金規程(平成22年規程第1号)第6条第2項の規定に基づき、国立大学法人帯広畜産大学基金(以下「基金」という。)の事業活動をより充実したものとするため、この規程を定める。

(賛助会員)

第2条 賛助会員は、基金の目的に賛同し、事業に協力するものであって、様式1の申込書を提出し、かつ、この規程に定める賛助会費を納付した者とする。

(賛助会費)

第3条 賛助会費の額は、次のとおりとし、1口以上を申しこむことができる。

(1) 個人会員の場合は、1口年額5千円とする。ただし、教職員については、1口月額500円として申し込むことができる。

(2) 法人・団体会員の場合は、1口年額1万円とする。

(賛助会員の脱会等)

第4条 賛助会員で脱会しようとする者は、様式2の脱会届を提出するものとする。

2 賛助会員が賛助会費を納付しない時は、脱会したものとみなす。

(賛助会費納付金の運用)

第5条 賛助会員から納付された賛助会費は、基金の運用財産収入又は基本財産収入として経理し、運用する。

附則

この規程は、平成22年1月21日から施行する。

附則(平成28年7月29日規程第31号)

この規程は、平成28年7月29日から施行する。

国立大学法人帯広畜産大学基金運営委員会細則

(平成22年1月21日 細則第1号)

改正 平成24年2月16日 細則第12号 平成27年6月2日 細則第7号

平成28年5月24日 細則第4号

(趣 旨)

第1条 この細則は、国立大学法人帯広畜産大学基金規程（平成22年規程第1号）第5条第3項の規定に基づき、国立大学法人帯広畜産大学基金運営委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(任 務)

第2条 委員会は、帯広畜産大学基金（以下「基金」という。）の管理及び運営に関する次に掲げる事項について審議を行う。

- (1) 事業計画に関する事項
- (2) 基金の予算及び決算に関する事項
- (3) 寄附の受け入れ及びその運用に関する事項
- (4) 寄附者への謝意表明の基本方針に関する事項
- (5) その他基金の管理及び運営に関する重要事項

(組 織)

第3条 委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 学長
- (2) 理事
- (3) 大学の役員及び職員以外で大学に関し広くかつ高い識見を有するもののうちから、学長が指名する者 若干人
- (4) 帯広畜産大学同窓会役員の中から学長が指名する者 若干人
- (5) 事務局長
- (6) その他学長が必要と認めた者 若干人

(任 期)

第4条 委員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、補欠又は増員による委員の任期は、前任者又は現任者の残任期間とする。

(委員長)

第5条 委員会に委員長を置き、学長をもって充てる。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故があるときは、委員長が指名した委員が、その職務を代行する。

(会 議)

第6条 委員会は、委員の過半数が出席し、かつ、第3条第3号の委員のうち少なくとも1名が出席しなければ、会議を開くことができない。

2 議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第7条 委員長が必要と認めたときは、委員以外の者を会議に出席させて、その者から説明又は意見を聴くことができる。

(庶務)

第8条 委員会の庶務は、事務局関係課等の協力を得て、基金・広報戦略室において処理する。

(雑則)

第9条 この細則に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

附 則

- 1 この細則は、平成22年1月21日から施行する。
- 2 この細則施行後、最初に任命される第3条第3号、第4号及び第6号の委員の任期は、第4条の規定にかかわらず、平成26年3月31日までとする。

附 則（平成24年2月16日細則第12号）

この細則は、平成24年2月16日から施行する。

附 則（平成27年6月2日細則第7号）

この細則は、平成27年6月2日から施行する。

附 則（平成28年5月24日細則第4号）

この細則は、平成28年5月24日から施行し、平成28年4月1日から適用する。



編集発行 帯広畜産大学基金
所在地 〒080-8555
北海道帯広市稲田町西2線11番地
電話番号 (0155) 49-5995・5228
<http://www.obihiro.ac.jp/~u-kikin/index.html>
